

## 第4学年 ふるさとコミュニケーション科単元指導案

薩摩川内市立市比野小学校

菊 永 美 樹

### 1. 単元名 ふる・コミュ科 市比野を支える働く人々（2）

### 2. 単元の目標

- ・ 地域の米作りを継承・発展させることの大切さを理解し、探究の過程に応じた技能を身に付け、食料生産に関わる概念を形成することができる。（知識及び技能）
- ・ 目的に応じて必要な情報を選び、比較、分類、関連付けながら見通しをもって追究し、工夫しながら筋道立てて表現したり、提案したりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・ 地域の米作りの継承・発展に課題意識をもち、自分なりの方法を工夫しながら主体的・協働的に探究活動に取り組んでいる。（学びに向かう力・人間性等）

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

ここ数年、4年生は2分の1成人式と関連させ、自分のなりたい職業についての調べ学習をしていた。今年度は地域の人々の協力を得て、地域の商業や農業を教材に取り組む。1学期は、昔ながらの温泉地が元気がなくなっている市比野で、菓子店、飲食店、みそ工場、道の駅に見学に行き、「市比野を支えるために」働いている姿を実際に見て、かべ新聞にまとめる活動を行った。2・3学期は、小学校周辺の田んぼに着目し、地域の米作りから、農業の現状と今後について考える。

地域に「よかところばい市比野」というキャッチフレーズがある。この教材に取り組むことが、ふるさと市比野の「よかところ」を児童が発見し、改めて魅力を感じ、地域に愛着をもつ機会となる。

また、これからの農業のあり方について考えたり、市比野のお米のPRを行ったりすることで、児童が主体的に考え、表現力をみがくことができる魅力的な教材といえる。さらに、国語の意見文などの作成、社会の伝統文化や史跡について学ぶ単元、図工の版画学習、キャリア教育など関連をもたせ、教科横断的に授業を展開することができる。

#### (2) 児童観

20名の児童は、ほとんどが市比野に幼少時から住んでおり、保護者も地元出身者が多い。9月にアンケートをとったとき、家族や親せきがとったお米を食べていると答えた児童は53%である。しかし、田んぼでお手伝いをしたことがある児童は24%しかいなかった。学校周辺は「和田」という字（あぎ）で田んぼが多いが、農家の仕事につ

いてはよく知らない児童が多いことが分かる。

また、学力面では配慮が必要な児童が多く、全体的に幼い印象を受ける。また、給食の残食が多いことも気になっている。この単元の学習を通して、これらの児童が自分事として課題を捉え、主体的に考え活動することを通して、視野を広げて物事を考える楽しさを知ってほしいと考える。さらに、自己やふるさとを愛し、これからの生き方に生かすことができると考える。

### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず1学期の活動を振り返らせた後、学校周辺の青々とした田んぼやそこにいる生き物、耕作放棄地を見に行く。次は農業について調べたい、との意欲を引き出し、市比野の米作りの現状はどうなっているのか、農家の仕事はどのようなものかなどの疑問をもたせる。

次に、児童にアンケートをとり、米作りについて自分たちがよく知らないことをみんな確認する。自分の祖父母など、米作りをしている家族に各自でインタビューを行い、近くの田んぼで稲刈りの見学をする。また、児童の祖父が経営しているいちご農園に話を聞きに行き、農家の工夫や努力に気付かせる。

そして、農業の専門家に米作りは「種作り」から始まっていることや、米作りの工夫について話を伺う。また、地域にある「田の神様（タノカンサア）」や「区画整理記念碑」、用水路について調べ、米作りには昔からたくさんの人々の思いが積み重なっていることを理解させる。1月にはもちつき体験も行い、食文化についても考えさせる。

12月には、分かったことから自分の考えをまとめ、意見文を作成して発表する。その後、自分たちにできることは何か考え、調べたことをプレゼンテーションソフトでまとめ、発表したり、お米のPR活動に取り組んだりする。その際、児童に主体的、協働的に取り組ませるために、グループに分け、自分たちで方法を考え、活動する経験を積ませたい。誰にPRしたいか、誰に聞かせたら効果的かを児童に考えさせ、社会に向けた活動になるようにしたい。また視野を広げるため、町内の小学校と、オンラインでの交流の機会ももたせる。

活動の最後に、SDGsとも関連づけて1年間の取組を振り返らせる。市比野には、地域を支えるために働いている人々がたくさんいること、自分たちも将来その一員となって地域を支えることに気付かせたい。これまでの活動意義について再考させ、今後自分たちが地域のために何ができるか考えさせたい。

### (4) ESDとの関連

#### ○ この題材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- B 相互性：農業は自分たちの生活や食文化と密接な関係にあり、自分たちの心がけや日頃の生活が変化すれば、地域が変わることを理解している。

C 有限性：田んぼで作るお米、田んぼの環境がつなぐ自然、受け継がれた文化には限りがある。

D 公平性：市比野の田んぼを未来に残すために、農家だけが努力するのではなく、私たちがお手伝いをしたり、お米を大事に食べたりする努力が大切であることを理解している。

○ この学習を通して育てたいESDの資質・能力

① クリティカル・シンキング：田んぼの役割と、農家の工夫や努力に気付くことで、田んぼに関する見方を見直し、これからの農業の在り方について考える。

④ コミュニケーション力：専門家にインタビューしたり、地域の方や他の学校の児童に発表したりする経験を通して、考えたことを分かりやすく表現する。

⑥ つながりを尊重する態度：田んぼを守ってきた先祖と自分たちとのつながり、田の神様を大事にしてきた地域住民のつなごりに気付く。

○ この学習を通して育てたいESDの価値観

① 世代間の公正を重要視する価値観

③ 自然環境、生態系の保全を重視する価値観

⑤ 幸福感を重視する価値観

○ 達成が期待されるSDGs

1 1 住み続けられる町づくりを

1 5 陸の豊かさも守ろう


#### 4. 単元の実際

##### (1) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 地域の米作りを継承・発展することの大切さを理解することができる。	① 目的に応じて情報を選び、比較、分類、関連付けながら見通しをもって課題を追究することができる。	① 地域の米作りの継承・発展に課題意識をもつことができる。
② 探究の過程に応じた技能を身に付けることができる。	② 「調べる」「広める」などの目的に応じて必要な情報を選び、工夫しながら筋道立てて表現することができる。	② 自分なりの方法を工夫しながら主体的・協働的に探究活動に取り組んでいる。

##### (2) 単元の指導計画（全35時間）

時	主な学習活動 (・ 子供の考えやつぶやき)	学習への支援	関連
1	(1) アンケート結果を分析し、田んぼを		

<p>導入 課題の設定 (2)</p>	<p>見学して今後の見通しをつかむ。(9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米作りの手伝いをしている友達は少ないんだね。</li> <li>青々とした田んぼも多いけれど、草ぼうぼうの土地もあるね。</li> <li>この水はどこに流れているんだろう。</li> </ul> <p>市比野の米作りについてもっと知りたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果から、自分たちが身近な田んぼや米作りについてあまり知らないことをつかませる。</li> <li>用水路の存在に気付かせ、耕作放棄地の存在を知らせて問題意識をもたせる。</li> </ul>	
<p>情報収集 の 集 (15)</p>	<p>(1) 身近な家族にインタビューをする。見学や映像で米作りについて知る。もちつき体験をする。(9月～1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな工夫や努力があるね。</li> <li>昔と比べると機械化されているね。</li> </ul> <p>(2) 農業の専門家の話を聞く。(10・11月) (元 JA 営農指導員・東いちご農園)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米作りは種作りから始まっているんだ。</li> <li>地域の農業を大切に守っている人がいるんだね。</li> </ul> <p>(3) 田の神様、区画整理記念碑、昔の用水路を見学し、地域の米作りの歴史について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市比野の田んぼは先祖が大切に守ってきたものなんだね。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューの仕方、情報の集め方などのワークシートを活用させ、児童主体で調べさせる。</li> <li>祖父母や家族にインタビューさせ、課題意識をもたせる。</li> <li>農業の仕方の工夫や努力している点について話をしてもらうよう講師と打ち合わせる。</li> <li>分かったことをまとめさせたり、お礼の手紙を書かせたりすることで思考を深めさせる。</li> <li>1学期に作成した地図に、見つけた記念碑などを付け加えさせる。</li> <li>「私たちの樋脇町」「樋脇町の文化財」などの本を参考に調べさせる。</li> <li>調べた後の感想をみんなで共有し、意見文作成につながりをもたせる。</li> </ul>	<p>国語科との関連  社会・国語科と関連</p>
<p>整理分析 (1)</p>	<p>(1) 市比野の米作りの強みと弱みは何なのかまとめる。(1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔からお米の産地だった。</li> <li>農家さんはお年寄りが多い。</li> </ul> <p>(2) 自分たちにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市比野のお米のPRをしたい。</li> <li>たくさん子どもたちに伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの資料やSWOT分析の表をもとに、ふせんを使って整理・分析させる。</li> <li>誰にどのような方法で伝えるか、どう思っしてほしいのかを明確にさせる。</li> </ul>	

<p>4 ま と め ・ 表 現 (15)</p>	<p>(1) 米作りについて、意見文やパワーポイントにまとめ、発表する。(12・2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内児童や学級 PTA (録画)、樋脇小学校 (オンライン交流) に向けて</li> <li>○ ゲストティーチャー (元営農指導員、原田米店、公民館長) に向けて</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市比野の田んぼは自分たちで守っていかないといけない。</li> </ul> <p>(2) 地域に市比野のお米の PR をする。(1月・2月)</p> <p>市の広報誌・南日本新聞 物産館・原田米店</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちのアイデアが地域の役に立つんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タブレットでパワーポイント資料を作成させる。</li> <li>・ 調べたことを自分の言葉で伝えさせることで、思考を深化させ、市比野の米作りについて責任感がわいてくるようにさせる。</li> <li>・ 「田の神すごろく」の絵の作者にオンライン授業をお願いし、田の神様をモチーフにしたポスターを制作させる。</li> </ul>	<p>国 語 科 と 関 連</p> <p>図 工 科 と 関 連</p>
<p>5 振 返 り ・ 発 展 (2)</p>	<p>(1) 米作りの大切さが分かったか、市比野で働く人々を新しい視点でとらえることができたか振り返る。</p> <p>(2) SDGs との関連を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然の豊かさを守りたい。</li> <li>・ 大切にお米を食べよう。</li> <li>・ 来年度の5年生にも伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートを再度とり、自分たちの意識の変容に気づかせる。</li> <li>・ 17の目標とどう関連があるのか考えさせる。</li> <li>・ 自分の考えをまとめ、これからもふるさとを大切にする気持ちをもたせる。</li> </ul>	

## 5. 取組の成果

### (1) カリキュラムマネジメントの推進

#### ア 社会科との関連

主に知識の深化を促すために、社会科と関連させている。「伝統・文化と郷土の先人たち」の単元では、薩摩川内市の教材が2つとも旧川内市のものであり、市比野の児童にはなじみが薄かった。今回、昔の副教材「私たちの樋脇町」を活用し、学校の土手にある田の神様、すぐ近くの昔ながらの用水路、耕地整理記念碑を題材に、先人たちの苦労を身近に感じられるようにした。この学習の感想は、ロイロノートで共有し、国語科の意見文作成の参考とさせた。また、5年生1学期に学習する食料生産の内容とも関連させ、学年をまたいで知識が深化するように工夫した。



## イ 国語科との関連

次に、技能の活用を促すために、国語科と関連させた。カリマネ案の他にも、1学期に「聞き取りメモの工夫」「お礼の気持ちを伝えよう」「アンケート調査のしかた」の学習で獲得した技能を活用し、見学やインタビューに生かしている。また、1学期の「新聞をつくろう」についても、ふる・コミュ科で市比野の商業・工業について見学したことをもとに、新聞記事を書く学習を行っている。

実施に当たっては、ふる・コミュ科の目標及び内容と、他教科等の目標及び内容の違いに留意することを心がけた。

国語科「もしものときにそなえよう」で児童が書いた意見文

- ・ ぼくは、用水路は生活のために必要だと考えます。なぜなら、用水路は水を田んぼに送る役わりをはたしているからです。～以下略～
- ・ ぼくは、北さんからお米の大事さを教えてもらいました。ぼくはお米の一つぶ一つぶを大事に食べようと考えます。なぜなら、種を作るのに3年かかり、お米が育つまでには4か月かかるからです。～以下略～

## ウ 図画工作科との関連

米作りに関心をもってもらうためのポスター作りと、図画工作科の版画制作と関連させて取り組んだ。友人である鹿児島島の出版社、燦燦舎の鮫島さんが「田の神すごろく」を制作していたため、2月にオンライン授業をお願いしている。田の神様の片手に米に関するもの（しゃもじや茶碗など）、もう片手には自分のオリジナルでサッカーボールなど好きなものを持たせるデザインで、制作の構想を立てている。作った版画は文字を添えて、原田米店や物産館、学校内に貼る予定である。

版画のモチーフを何にさせるかは毎回困るが、田の神様は形が単純で画面いっぱい表現しやすい。黒一色でもインパクトがあり、ポスターには最適なのではないかと考えた。また、伝統的なものを身近に感じることで、子供たちがこれからも昔のものに関心をもてるのではないかと考える。

### (2) 関係者・関係機関との連携

今単元では、たくさん関係者・関係機関に連携してもらった。「社会に開かれた教育課程」の実現のためにも、これからも連携を続けていきたい。

- 東農園（児童の祖父：いちご農園見学、いちご栽培の工夫や努力について）
- 北さん（元農協営農指導員：米作りの工夫や努力、種もみ作りや品種について）
- 中野さん・龍野さん（鹿児島大学教育学部技術員：伝統のモチ米栽培・餅つき指導）学生さん
- 山口先生（鹿児島大学教育学部准教授：米作りに関する意見文発表のゲスト）
- 鮫島さん（燦燦舎イラストレーター：田の神様のポスター制作アドバイス）
- 原田米店（お米マイスター：まとめ発表のゲスト）

○ 市比野・藤本・野下地区の公民館長（児童の祖父：まとめ発表のゲスト）



(3) SWOT 分析の活用

SWOT 分析とは、目標を達成するために、事業上の計画などに関して、外部環境や内部環境を強み (strengths)、弱み (weaknesses)、機会 (opportunities)、脅威 (threats) の4つに分けて要因分析し、経営資源の最適活用を図る戦略策定方法の一つである。

今回は市比野の米作りについて SWOT 分析をした。桃色の付箋はプラス面、青色の付箋はマイナス面の要因である。グループごとにたくさん出させた後、黄色の付箋でその解決策を貼らせた。これをもとに、地域に提案したいことをまとめ、発表会につなげた。

児童は、今までの探究活動をもとに分かったことを付箋にどんどん貼っていき、グループを歩き来して互いの意見を見合っていた。解決策も面白い意見が多かった。

SWOT 分析で出てきた解決策（例）

- ・ お米を大切に感謝して食べよう。
- ・ 米作りのよさを広めるために農業体験のイベントをしたらいい。
- ・ 機械を使って効率よく農業をしよう。
- ・ ポスターを作って市比野のお米の PR をしよう。

SWOT 分析は、短文で書くため児童でも取り組みやすく、多面的に物事が捉えられる。そのため、解決策が考えやすく、児童が主体的な活動をすることができた。

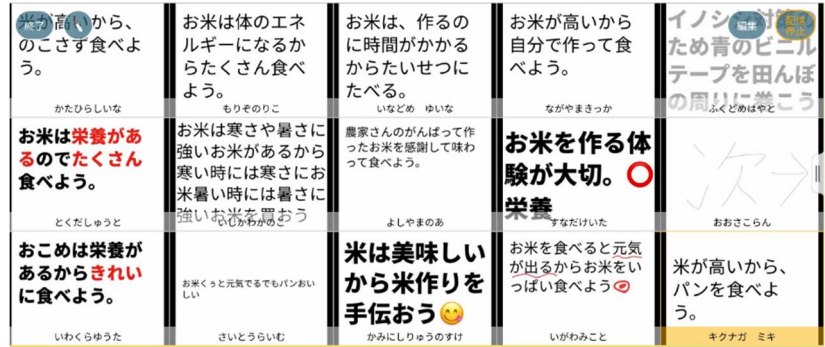


#### (4) 教育 DX との関連

教育 DX とは、児童の生徒の学習環境など、学校教育の現場にデジタル変革をもたらすことを意味する。学校現場はその技術を活用して、これまでにない学習環境を構築することが求められている。今単元では次のような活動を行った。

##### ア タブレットの活用

元農協営農指導員の話を聞いた後と、田の神様、区画整理記念碑、昔の用水路についてグループごとに調べた後に、ロイロノートを使って感想を交流し



た。国語科で意見文を書く前段階として、大切だと思ったことを交流することで、友達の考えを参考に自分の意見を形成する協働的な学びができていた。

##### イ オンライン交流・オンライン授業

2月に、樋脇小4年生とオンライン交流を行う予定である。ふる・コミュ科と国語科で作成した、米作りに関するパワーポイントとスピーチを発表する。樋脇小からは、お茶の栽培についての発表をしてもらう予定である。自分たちが調べたことを学外に知らせ、評価してもらうことは、自己肯定感を高め、これからの生活の自信にもつながると思う。

また、2月には「田の神様すごろく」のイラストを描いている燦燦舎の鮫島さんのオンライン授業を予定している。

オンライン授業なら、講師を気軽に依頼することができるよさがある。



## 6. 成果と課題

### (1) 研究の成果

- 目標となる児童の姿を意識化し、ESD の考え方を生かしてふる・コミュ科の実践を行ったことで、学校教育目標である「ふるさとを愛し、確かな学力と豊かな心を持ち、主体的に行動できる子供の育成」の達成に近づくことができた。
- カリキュラムマネジメントを行い、学校生活の中でふる・コミュ科を中心に据えて学習活動ができるようにした。また課題を自分事として捉えさせることで、児童の「主体的に学習に向かう態度」を育成することができた。持続可能な社会の担い手になる人材の育成の一助になっていれば嬉しい。

- 本単元の学習にあたり、農業の振興のために働く人々にたくさん協力をいただいた。また史料から、地域のために努力を重ねてきた先人について知ることができた。児童は学習を通して、努力することと伝統の大切さを知り、ふるさとを愛し誇りをもつことができたと思う。

## (2) 今後の課題

- ふる・コミュ科では、地域のことを教員が知り、地域の関係者と連携して授業を進めることが必要である。自分自身が市比野の特色をよく知ることがこれからも心がけたい。また、地域おこしに尽力している人材や、域の学校に協力したいと思っているボランティアなどを学校を挙げて連携してリストアップし、学校を挙げてカリキュラムマネジメントをし、「社会に開かれた教育課程」を作成したい。
- 教科主任として、来年度のふる・コミュ科の年間指導計画を作成する予定である。今年度の活動を踏まえて、よりよい年間指導計画をつくっていきたい。カリキュラムマネジメントを行ったふる・コミュ科での探究学習の充実が、学校の教育目標の達成につながると考えているので、これからも継続して取り組みたい。



**現在の学年終了時に目指す姿**

郷土に愛着をもち、地域の一員として、郷土の米作りを継承、発展させるために何ができるかを主体的に考え、自分たちの考えを自信をもって表現することができる。

市比野で働く人々のことをもっと調べたいな。

**ふるさとコミュニケーション科(価値観の醸成)**  
**「市比野を支える働く人々(1)」**

市比野のお店や工場、そこで働く人々について調べることによって、児童は働く人々の工夫や努力、自分たちの生活と産業の関わり気付くことができる。また、地域に誇りをもち、もっと地域について調べたいという意欲をもたせる。

田んぼについて、学んだこと、考えたことを他の人にも伝えたい。

**国語科(技能の活用・行動の変容を促す)**  
**「調べて話そう、生活調査隊」**

ふるコミの活動を通して、アンケート調査や資料を調べて分かったことをまとめ、考えたことをスピーチにまとめる。学んだことを表現して他の学校や地域の大人に伝えることで、達成感を味わい、今後も食の問題や農業に関わろうとする意欲をもたせる。

**ふるさとコミュニケーション科**

**「市比野を支える働く人々(2)」**

○主に養いたい ESD の資質・能力  
クリティカル・シンキング

田んぼの役割と、農家の工夫や努力に気付くことで、田んぼに関する見方を見直し、これからの農業の在り方について考える。

コミュニケーション力

専門家にインタビューしたり、地域の方や他の学校の児童に発表したりする経験を通して、考えたことを分かりやすく表現する。

○主に育てたい ESD の価値観

- ① 世代間の公正を重要視する価値観
- ③ 自然環境、生態系の保全を重視する価値観

**社会科(知識の深化を促す)**

**「伝統・文化と郷土の先人たち」**

熊本の通潤橋、薩摩川内市の太平橋など、郷土の先人が努力した賜物として、今の暮らしがあることに気付く。市比野の田の神様、耕地整理記念碑、用水路の歴史を調べ、先人たちが豊作の願いをこめ、苦勞して田んぼを大切に受け継いできたことを知る。

自分の意見がきちんと伝えられて、自信が ついた。

**国語科(技能の活用を促す)**

**「もしものときにそなえよう」**

田んぼについての講話、田の神様や用水路などについての調べ学習をもとに、考えを伝える文章を書く。「自分の考え」「理由・具体例」「まとめ」の構成を考え、意見文にまとめることで、自分たちの考えを分かりやすく伝える表現力を高めることができる。

**社会科(5年)(知識の深化を促す)**

**「米作りのさかんな地域」**

**「これからの食料生産と私たち」**

ふるコミでの学習を生かし、農業と自分たちの生活の関わりを多面的に考える。

**図画工作科(5年)(価値観の醸成を促す)**

**「ほってすって見つけて」**

田の神様をモチーフに米作りの PR をする作品を作り、創作の楽しさを知る。